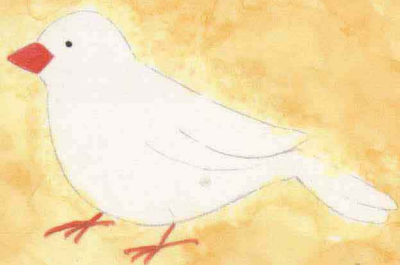


おやすみ、ピースケ

P-SUKE FOREVER

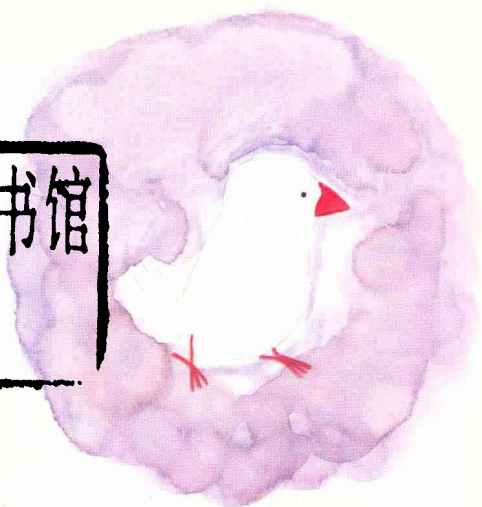


絵・文 久川 綾



おやすみ、ピースケ

工業学院図書館
蔵書章



この本を
天国にいるピースケに
精一杯の
感謝の気持ちをこめて
捧げます

久川 綾

9 み、ピースケ

川 綾



平成九年十一月一日 第1刷発行

発行者 石川康彦
発行所 株式会社主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台2-9 〒100-1

電話(東京) 03-5280-7510 (営業)

振替・00120-2-1180

企画・編集 株式会社オプトコミュニケーションズ

東京都千代田区神田駿河台1-6 〒100-1

電話 03-3294-1077

印刷所 図書印刷株式会社

©青二プロダクション

1997 printed in Japan

ISBN 4-07-222835-4

編集 フィールドワイ

ブックデザイン 大野拓家／武居雪夜(ラグタイム)

写真 増田岳二

スタイリング 西田麻美

ヘアメイク 美穂

協力 青二プロダクション

衣装協力

b・クラブ(ナルミヤインターナショナル)
東京都港区北青山3-5-6

電話 03-3404-2261

乱丁、落丁本はお取り替え致します。お近くの書店か、発行元へお申し出ください。
図本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(電話 03-3401-2382)にご連絡ください。



6月12日 水曜日

このところ、止まり木から止まり木への飛び移り方が鈍い。食欲は旺盛だがどうも体が重そうなので、産卵がまた近いのかな？ と様子を見ていた。遊んでやろうとカゴの扉を開けると元氣そうに出てくるのだが……。

午前の仕事が終わって、急いで家に戻った。カギを開ける音に氣が付いたのか、部屋の奥からは元氣な聲が聞こえてくる。

「おかえりっ！ あそぼ！」

すぐにカゴから出して頭をなでてやる。氣持ちよさそうに目を閉じている。プチプチという呼吸音、これも最近氣になってきた。そういえば、大好きなレタスも昨日から全然食べてない。とりあえずリングを刻んで入れたハチミツ入りのお水をあげる。これは勢いよく飲む。

夜7時からの仕事に出かけようとしたとき、いきなりカゴの中ではたばたと暴れた。腰が立たないらしい。本人も訳が分からないらしくパニックっている。

「大丈夫だよ。どうしたの？ 大丈夫だよ」

手のひらに乗せ、頭をなでて落ち着かせる。しばらくして安心したのか、手のひらの上で眠りはじめた。そーっと鳥カゴの巣に戻して、カゴをタオルでくるんだ。

昨日から病院にTELしているが折り返しの連絡が来ない。夜7時を過ぎていたがもういちどかけてみると留守TELになっていたので病状をメッセージに残しておいた。

今日は休診日だったのか。どうりでTELが来ないわけだ。こうなったら一日も待てない。明日、朝イチでTELしよう。

6月13日 木曜日

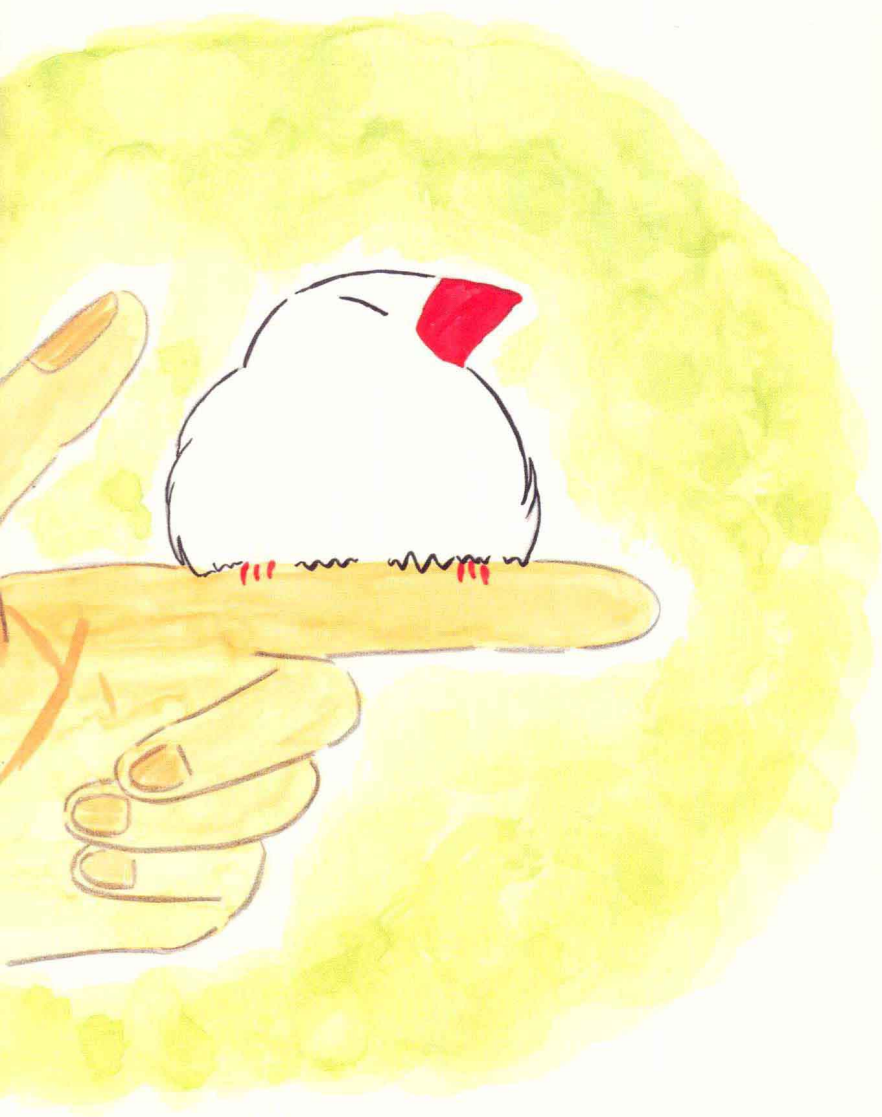
「鳥の病院」は友達の獣医から紹介された、日本でも数少ない鳥専門の病院だ。昼まで待っても折り返しの連絡がなかった。こちらからTELして、すぐピースケを連れて出かけた。

着いた早々、36ページのコピーを読まれた。日本の鳥に対しての認識の誤り、モラルの低さ、鳥専門の獣医がほとんどいないこと、診療代の高い理由など、それを読んだ上で、改めて診療を受けるかどうかを飼い主が決める。ピースケに対する気配りの足りなさ、こんな結果を生んだのだと反省しながらすぐに「診察をお願いします」と申し出た。

看護婦さんがカゴを診察室に運んできた。コピーを読む間、入院室という病鳥たちがたくさんいる部屋でピースケは待たされていた。彼女の何倍もの大きさのオウムの前にカゴを置かれたのできつと怯えていたに違いない。私の顔を見てホッとするピースケ。今すぐにでもカゴから出して、いーこいーこしてあげたかった。

病状を先生に話す。女性の獣医さんは慣れた手つきでカゴの中のピースケをつかまえ、診察を始めた。フンを顕微鏡でみる。それをモニターに写して説明してくれる。人間でいうビフィズス菌などの体内の菌のバランスが崩れて、悪い菌がどんどん増えている状態らしい。くちばしから金属の長い棒を入れて、^{のう}そ嚢液をとる。先生が「おなかがかなり膨れてますね」と腹部を触りながら言う。体が重いので卵かと思っていたが、そんなに膨れているとは……反省する。エコーで見るとお腹に水がたまっていた。その中に小指の第一関節ぐらいの丸いものが写っている。やつぱり卵なのか。

とにかく何らかの代謝異常の疑いで即入院、血液検査が必要だった。今の体力では血一滴とるのも生死にかかわる。まずは入院して併発している他の病気を治し、体力を回復させてから血液検査をし、それによって手術かどうかを



ち　ちよつと

そこで寝られると

何もできないじやないっ

決める。

入院費、薬代の説明に入った。飼い主によつては、「たかが鳥ごときにそんなに高くつくなら結構」と入院を拒否する人も少なくないという。

「入院なさいますか？」

もちろんだ。大切な家族が重病なのにみすみす見殺しにできるか。この5年半ずーっと一緒だった大事な大事なピースケなんだ。

「入院はもちろん、血液検査も手術も、できることは何でもお願いします！」

お金のことなんかこれから考えればいい。足りなくなればもっと働けばいい。とにかく元気なピースケに戻ってほしい。入院の手続きを済ませると、鳥カゴから水槽のような小さいケージに移されて保育器（人間の未熟児などが入るインキュベーター）に入っているピースケと対面した。1羽づつ別々のケージに入っているが、会ったこともない鳥たちに囲まれて本人は不安がっている。

「ここが安全ということを早く覚えてもらうためにも基本的に面会はできません。飼い主さんが来られても本人に気が付かれないよう声をかけてはいけません」

インキュベーターの中、人間でいう大病室の窓際や角側ならまだしも、いちばん周りに気を遣う真ん中の位置。「ここはどこ？」という顔のピースケを見ると涙が出てきた。

「早く元気になろうね」と気づかれないように声をかけ、先生方に挨拶をして病院を出た。

外は日差しが強く照りつけていた。ピースケとの6度目の夏がもうすぐそこまで来ていた。



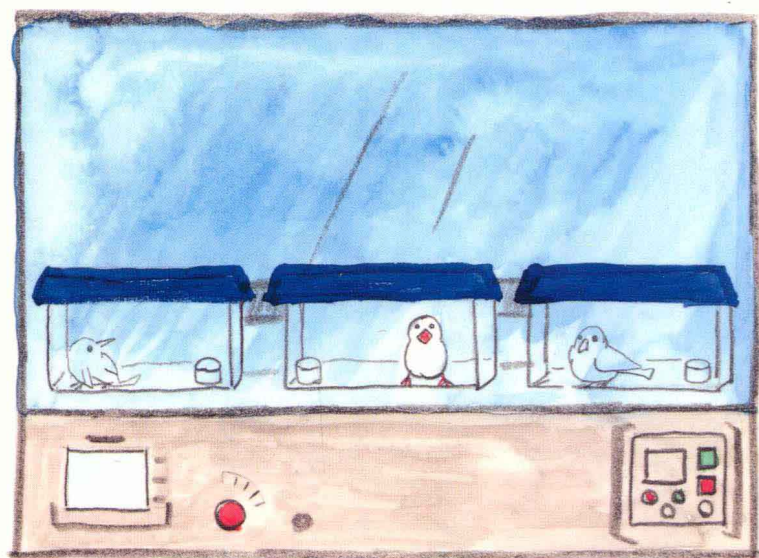
「大丈夫だよ」

いーこいーこしながら

そう言っであげたいけど……

きつと治ると

信じているからね



6月14日 金曜日

朝起きると、いつもの「おはよっ！」の鳴き声が聞こえない。病院から帰ってきた鳥カゴは昨日のうちに掃除したのでキレイだ。けれど肝心の家主がいない。

仕事のときも演じている時以外はずっとピースケのことで頭がいっぱいだった。元気かな。さびしくないかな。ごはんちゃんと食べてるかな。お薬飲んでるかな……。

面会はできないけどTELで様子を聞くことは許されている。たかだか一日でそんなに様子も変わらないだろうと自分に呆れつつ、アフレコの合間がちょうど病院がヒマになる時間帯だったので、TELしてみた。

「あの、先日からお世話になっております久川と申しますが、うちの子は……」

うちの子というのも変だが他に言い方がない。

「ピースケちゃんですね。昨日からちゃんとエサも食べてますし落ち着いてますよ」

先生は即座に答えてくれた。よかった、それだけ注意して診てくれてるんだ。安心して早々にTELを切った。スタジオの外はどんよりと暗い夕方。梅雨の時期独特の小雨がぱらついていた。

家に帰ると三木眞一郎君からお見舞いのFAXと、梅澤秀行さんからのメッセージが入っていた。明後日から行く予定だった『青空少女隊』の打ち上げ温泉旅行をキャンセルするFAXを出したばかりだ。二人とは東名のサービスエ

リアで待ち合わせて、私の運転する車を先導してもらおう約束だった。

『がんばれ あやちゃん！ がんばれ!!』

すごく嬉しかった。

6月15日 土曜日

井上喜久子さんがピースケのことを聞きつけてTELしてきてくれた。明日からの温泉旅行をあんなに二人で楽しみにしてたもの。

「大丈夫あやちゃん、きつとよくなるよピースケ。私も祈ってるから。あやちゃんにとってピースケがどんなに大事な家族か、私がいみんなにちゃんと説明しといてあげる。だから元気だしてね。おみやげ買ってくるからね」

ありがとう喜っ子さん。一緒に行けなくて本当にごめんね。

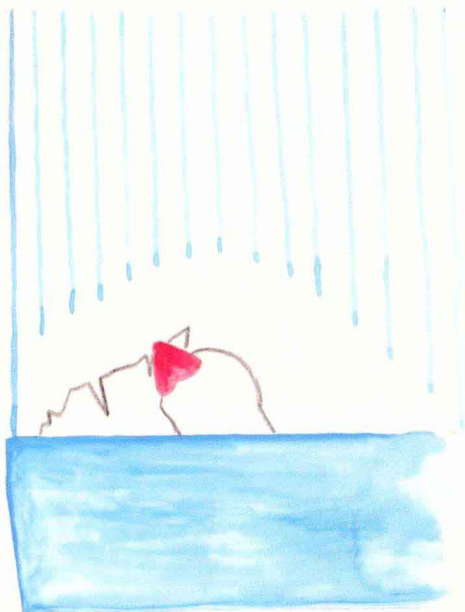
そういえば昨日、ビクターの北山さんにキャンセルのTELしたときも心配してくれてたな。みんなありがとう。

病院からTELが来ない、ということは何も起きてなくて平穏だということだ。昨日早々に親バカぶりをみせたので今日は控えておこう。おやすみ、ピースケ。

もうっ

さつき鳥カゴ そーじしたばつかしなの!!

せつかくまつ白の敷紙に替えたばつかしなの!!





ハイネックの中は
どーやらあたたかくて
気持ちいいらしい

6月16日 日曜日

打ち上げ旅行をキャンセルしたので今日と明日がオフになった。

写真集の絵のメ切が近づいているが、ピースケのことですっかり描く気が失せていた。でも少しでも作業を進めておかないと間に合わなくなつてみんなに迷惑をかけてしまう。

絵の調子がでてきて一息ついた頃、時計を見ると夕方だったので病院にTELしてみた。

血液を採取したという。入院したのは3日前なのにそんなに早く採取できたということは、思ったより回復が早いということかと嬉しくなった。けれどそんな気持ちも一瞬にして消えてしまう。

まだ結果は出てないが、エコーで写っていた卵型のものは腫瘍かもしれない、腎臓の辺りにできているせいで腹部に水が溜まっている可能性が高いという。

「人間でいうガンです」

鳥にもガンがあるんだ……。

「まだ確定できませんが、腎臓の腫瘍は背中と臓器がくっついているので切り取ることができません。腫瘍の大きさも手術で開けてみなければ分からないんです。近日中に血液検査の結果も出ますし、ご相談したいのでお越しください」